

事務事業評価シート 平成 29 年度事後評価・決算

平成 31 年 2 月 21 日時点

事務事業評価シート						平成 29 年度事後評価・決算		所管課		農水産課		担当班		振興班		
事務事業名		コード	22400 農業振興事務費		予算科目	会計		款	項	目	事業種別	☒ 主な事業				
①			(産業まつり)			一般		6	1	3		☒ 国土強靱化地域計画				
施策体系	基本施策	1	農水産業の振興		根拠法令 旭市補助金等交付規則							☒ 新市建設計画				
	施策の展開	1	農畜産物の生産振興		戦略事業 7 産業まつり							☒ 新市建設計画				
施策の展開					戦略事業							☒ 定住自立圏構想				
												☒ 主要事業				

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない		
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 17 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	農水産物・商工業製品の展示即売、活動PR等をメインにステージイベント等を行う。 実施団体:旭市産業まつり実行委員会 実施時期:11月 時間:午前10時～午後2時		
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化		⑤ 事務事業に対する住民からの意見等
合併前の各市町村(3市町)においてそれぞれの地域の産業の振興と、地域住民の相互のふれあいを成就するため。旧旭は農協中心の祭りに昭和59年に市が加わった。旧海上は昭和62年から。旧干潟は昭和62年から。	合併後9年が経過し、旭市全体での一体感の醸成が必要になっている。平成25年度は会場の都合もあり旭・干潟は合同で開催し、海上は単独で行った。当日協力可能な職員数は減少している。		合併後9年が経過し、市民の一体感を醸成するために同様のまつりなので一本化してはどうか。3つのまつりを一本化するにあたり、「海上はイベントが何も無いので会場を海上にしてほしい。」といった意見がある。

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(29年度の決算)		単位:千円	
1.いきいき旭・産業まつり補助金	5,912	業務委託・バス等借上料・出演者謝礼・印刷費等	
2.海上産業まつり補助金	0	業務委託・バス等借上料・出演者謝礼・印刷費等	
3.ふるさとまつりひかた補助金	0	業務委託・バス等借上料・出演者謝礼・印刷費等	
② 特定財源の内訳(29年度の決算)		単位:千円	
1.国庫支出金	0		
2.都道府県支出金	0		
3.地方債	0		
4.その他	5,913	地域振興基金繰入金	

事業費	費目内訳	1. いきいき旭・産業まつり補助金	千円	2,809	3,099	5,573	5,913	7,000
		2. 海上産業まつり補助金	千円	3,812	3,498	0	0	0
		3. ふるさとまつりひかた補助金	千円	2,808	3,099	0	0	0
			千円					
	事業費計 (A)		千円	9,429	9,696	5,573	5,913	7,000
	財源	1. 国庫支出金	千円					
		2. 都道府県支出金	千円					
		3. 地方債	千円					
		4. その他	千円			5,573	5,913	7,000
		5. 一般財源	千円	9,429	9,696	0	0	0

前年度増減理由	
---------	--

従事職員数	常時	3人	最大	150人	×	1日	=	延べ	150人
-------	----	----	----	------	---	----	---	----	------

前年度	
増減理由	

従事職員数	常時	3人	最大	150人	×	1日	=	延べ	150人
-------	----	----	----	------	---	----	---	----	------

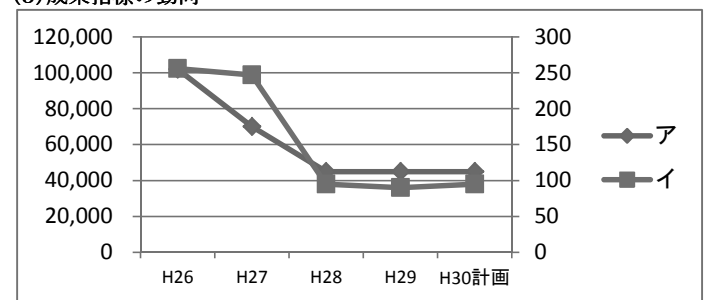
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	③ 活動指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
29年度実績(29年度に行った主な活動)	旭市産業まつりの開催(11月) 産業まつり開催に係る実行委員会及び実務担当者会議等の開催(適時)	ア 開催回数	回	2	2	1	1	1
		イ シャトルバス運行本数	便	140	140	81	91	95
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
対象意図	旭市民及び近隣住民 ・交流して、楽しみ、相互の連帯感を持つことができる。 ・市の農水産物・商工業製品を知る。(できれば買ってもらう。)	ア 来場者数 (産業まつりのPR効果や交流の場として機能しているかを見ることが出来る)	人	102,000	70,000	45,000	45,000	45,000
		イ 出店者数	団体	256	247	95	90	95
対象意図	農水畜産物、商工業製品等の販売・PRを行う者で、市内在住または市内に事務所を持つ者 市内の産業を知ってもらおう。更には買ってもらう。							

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		成果向上余地		
施策貢献度	大きい	かなりある	ある程度ある	ほとんどない
	普通		⑤	
	小さい			
② コスト削減優先度評価結果		コスト比率		
評価結果	①	下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3
	②			
	③			
	④⑤	(4)		
	⑥			
	⑦⑧			
	⑨			

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況	② 成果の状況	③ 今年度取組事項(30年度に取り組む主な事項について記載)	今後の方向性
【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)	☐ 完了 ☒ 順調 ☐ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難	成果指標ア 成果指標イ	時期 平成30年度	内容 実行委員会等で農協や商工会、漁協との連絡調整を密にし、出店数の増加やイベント内容の拡充等により、来場者数の増加を図り、まつりを盛り上げる。
	【コメント】 (低下の場合、その理由)	数値増＝成果向上 ☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下 数値増＝成果向上 ☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	比較 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30計画	現状維持 ☒ 見直し ☐ 廃止・休止 ☐ その他() 外部団体との綿密な打合せを行い、実際の実施に際してはこれまでの反省点を活かして、より地域の産業振興に寄与できるようなイベントにしてい